

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500671		
法人名	医療法人 森生会		
事業所名	グループホーム もりの家「花ユニット」		
所在地	北海道茅部郡森町上台町330-85		
自己評価作成日	平成26年8月11日	評価結果市町村受理日	平成26年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が隣接しており、健康管理や急変時の対応等、医療面に関して迅速な対応ができ、グループホームに訪問看護師が1名配置されていたりと医療との連携が取りやすいため、安心した生活を送ることが出来ます。
また、外食や行事など外出する機会を増やしたり、近隣の幼稚園や高校、町内のボランティアとの交流などを通し、季節を感じて頂いたり、毎日の生活の中で何かしらの刺激があるような支援が出来る様にスタッフ一同努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0171500671-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年9月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、森町を横断する国道5号線から山側に500m程入る郊外に立地している。運営母体である医療法人「森の里病院」と同じ敷地内にあり、系列のグループホームが隣接している。3事業所が合同で実施する夏祭りは、利用者と家族、地域住民が多数参加して盛大に実施されている。管理者は、職員から意見を聴取し、職員と一緒に話し合いながら、利用者一人ひとりに必要な支援を柔軟に提供できるよう取り組んでいる。職員は各ユニットでケア理念を作成し、定期的に評価をしながらサービスの質の向上に努めている。利用者は自然豊かな環境の中で、四季の変化を感じながら穏やかな生活が確保されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目の届く所に掲示し、意識して介護が行なえるように努めています。 また、朝礼やミーティングなどでスタッフ間での共有も図っています。	管理者・職員は地域密着型サービスの意義を踏まえた基本理念と、ユニットごとに定めたケア理念をネームプレートの裏に記載し、共有を図りながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は多い方ではないが、町内会の新年会や定期的に行なわれている配食サービス等のお手伝いを通し気軽な交流が出来る様努めています。	職員は町内会の行事に利用者とともに参加している。事業所の夏祭りには地域住民が大勢訪れており、ボランティアの受け入れも積極的に行われている。また、近隣の方から畑の作物の差し入れがあり、地域との交流は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会での活動に参加させて頂いた時に、高齢者の方々の暮らしや今後の事で役立つ事がないかなど話す機会を設けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を写真や説明を通してお話させて頂きながら、そこで頂いたご意見等を議事録に残し活用しています。	会議は概ね2ヶ月毎に開催され、町担当者、地域包括支援センター職員、町内会長、利用者家族と認知症の会などの参加を得て、意見交換をしている。	会議の議題が毎回同じで、議事録も不明瞭であるため、運営推進会議を活かした具体的なサービスの取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域包括ケア会議等を通じ、円滑な連携が図れるように努力しています。	町担当者とは、近隣の町営住宅に入居している高齢者の情報や介護保険に関する業務などで常に連携を図り、地域ケア会議に参加し、意見交換を行うなど協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上夜間のみ行っています。 身体拘束についてはやむを得ず行なう際は御家族への説明・了承や同意書を作成した上で行っています。	運営母体である森の里病院長が身体拘束による弊害を職員に伝え、職員間の共有認識を図り、外部研修会の参加や内部勉強会を実施するなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや外部研修、日々のミーティング等を通じ理解の共有を図りながらケアに従事している。 言葉使いについてもスタッフ間でお互いに気をつけてあげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状必要とされる方がいらっしゃらず、後々の為必要性は感じてはいるが特定の人のみで活発には学習会等行なわれていないので今後実践できる様検討中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者様、御家族様に対し契約内容を理解して頂ける様に難しい専門用語を使わないように説明し同意・了承を頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時やお便り等で日常生活の様子をお伝えしつつ相談等を受け、それを元に改善等に努めています。	家族とは些細なことでもお互いに話し合える関係を構築し、表出した意見や要望は検討し、事業所の運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苦情や不満等を言い合える環境作りやよりよい信頼関係が構築できるように心がけながら職員の意見や提案等に耳を傾けている。	管理者は、職員からの情報や意見を聴取し、職員と一緒に話し合いながら事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まだまだ解決出来ない面もありますが、各自が責任感や向上心を持てる様に環境作り等を推進しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り外部研修等に参加してもらい、研修後は法人内でも学習会として結果報告してもらい職員間で情報共有を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等にて、他施設の方との意見交換やネットワーク作りを行っている。現在は行っていないが他施設への視察なども検討しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントや本人様と御家族様の気持ちを照らし合わせながらも、出来るだけご本人様の思い通りの生活が送れるように関わりを持つように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の際は勿論、面会時に声掛けや電話等でも御家族からのニーズや相談等がいつでも出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や御家族様の中立的な立場で、その時々に必要な支援の仕方を情報提供等が出来る様に努力している。 また、協力医院との連携も図りながら行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様にも出来る事はお手伝い頂き、施設内の全体で協力しあいながらお互いに支えあって生活が送れるように心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の来所時に入居者様の近況等お伝えしています。また、中々ホームに来られない遠方等にお住まいの御家族様に対してもお便りや定期受診の結果等郵送させて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様や御家族様の思いや状況を見ながら、外出や行事のお誘い、他施設への面会、電話の依頼等少しでも関係性が途切れないように心がけて努めています。	事業所に知人や友人の訪問がある時は声がけをしている。他施設に職員と一緒に友人を訪問したり、電話の取り継ぎや手紙のやりとりなど、従来の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の目線で物事を考えながら、お互いが支えられるような関係を考慮し状況に応じて職員が間に入りながら対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	健康状態の悪化や医療の必要があり、病院へ入院された方も居ます。その際、必要な情報も含め御家族様や相手側との連携や調整を行っています。その都度、納得できる様説明し了承して頂ける様相談や支援を行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や御家族様からの意向や希望に沿ってケアが出来る様取り組んでいますが、入居者様の重度化も進んで来ており、本人様からの希望の把握は困難になりつつあり日々の生活の中で、言動や表情、動作等を見ながら思いを汲み取れるように努力しています。	日々のコミュニケーションの中で利用者一人ひとりの思いを察し、困難な時は家族から情報を得ながら意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や御家族様等、機会があるときには情報収集するように心がけています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残し、スタッフ間で情報を共有し、入居者様の日々の生活の中から心身の状況や精神状況の把握に努め、その有する力を見出せるように心がけて努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や御家族様の意向や思いを反映する為に、モニタリング、アセスメント、サービス担当者会議等を通じ意見交換をしご本人主体のケアプランを作るように心がけている。また、作成したプランは御家族様にお渡しし説明・同意を頂いています。	本人・家族の要望を取り入れながら、医師の判断と訪問看護師、担当職員、介護支援専門員などと協議を重ね課題の有無を検討し、現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年の春に電子カルテを導入しました。現在少しずつではあるが一元的に記録等が見られるように移行しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・御家族に応じて、通院や送迎等の支援も行っている。医療連携体制は整っており、訪問診療・看護は24H体制になっています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の食堂への外出等、入居者様のご要望に出来るだけ応えられるように心がけている。また、幼稚園・学校や町内のボランティアの受け入れも行っていきます。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の森の里病院と連携し月2回の訪問診療・訪問看護の他、ご本人や御家族が希望する病院での医療が受けられるように御家族を協力して通院介助を行なう等の支援をしています。	従来のかかりつけ医の継続受診も可能であり、医療機関とは情報交換ができる体制を整えている。協力医が定期的に往診し、夜間対応も完備している。また、看護師による健康管理も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の森の里病院より訪問看護師が1名配置されており、必要に応じて医療アプローチを実施している。また、急変等あった場合は昼夜問わず連絡を取り相談・指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接の森の里病院の医療連携室を連携し、必要な医療等のアプローチや利用者様の個人情報等をご本人や御家族様に了承を得て情報提供を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に病状の重度化や終末期の体制について説明していますが、体調や健康状態に合わせ医師や看護師を連携を取りながら、その都度、ご本人様や御家族様と今後の対応策を話しあい、ホームでの対応等を支援しています。	契約時、重度化に伴う対応と終末期について家族へ説明し同意を得ている。重度化した場合は主治医の判断と指示を受けながら、繰り返し家族の意向を確認し、職員とともに支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時のマニュアルを作成しています。急変時等は管理者への連絡、ドクターコール、救急車の手配等が出来る様な措置を講じています。消防署などでの救命講習にも参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を町内会にも参加のお願いをしながら行い、入居者様が安全に避難できる措置を講じています。その他の災害時に向けた備蓄品などに関しても法人内で検討中です。	年2回、日中・夜間想定避難訓練を町内会の方々参加を得て実施している。終了後には消防署職員の指導があり、近隣施設と災害に対する協力体制を整え、備蓄品も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応等、気をつけながら行なっているが、まだ十分とは言えない為、今後も入居者様の思いに立って言葉掛けなどのサポートが出来る様工夫・努力していきます。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いを職員間で確認し合っている。契約時には情報の個別性や守秘義務について家族に説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の生活ベースを大切に、自己決定が出来る機会が図れるように努めていますが、意思疎通が取りにくい方も増えて来ていますので、表情や動作等で思い等が汲み取れるように心がけて努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、何か役割が持てる機会を作っていくご本人が得意なものをこなして頂ける様に努めています。また、個々で力の発揮出来る場面や集団での活動等、様々な場面で出来る事や楽しみが持てる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を傾聴しつつ、季節や体調等に合わせながら声掛けや介助を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な食材の下準備や下膳・食器洗い・食器拭き等を行なって頂いています。また、会話をしながら食事を楽しめる機会やご本人の嗜好などの把握も心がけて努めています。	事業所の献立は母体施設の栄養士が作成している。職員は本人の出来る事を見極めながら、調理や後片付けを見守っている。時には外食をしたり、お弁当持参で外出するなど楽しい食事になるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専従の栄養士が配置されており、ひとりひとりの状態・状況を見ながら、それぞれに適したバランスや食事形態等を相談しながら支援を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、入居者様個々の能力に応じた支援を行っています。また、その時の状況によって協力医院の歯科医院に往診対応を頂いています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の能力に応じて、個々に対応しながら排泄パターンの把握等に努め、失敗が少しでも減らせるように支援しています。	職員は利用者一人ひとりの排泄チェック表を把握し、さりげない声掛けや促しで誘導をしている。車椅子利用者には立位の練習を重ね、点滴棒を利用して歩行訓練をしながらトイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や飲食物の工夫、身体と動かす機会作りなどを働きかけるように努めていますが、便秘時は医師や看護師に指示を頂き下剤の使用などとしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂ける様に、本人の意向を大切にされた支援を心がけてはいますが、安全面を考慮し夕方以降の入浴は行っていません。	週3回の入浴を目安としているが、拒否傾向が見られる時は強制することなく時間やタイミングを見計らったり、職員の交替などで対応している。手すりや完備してある大型浴槽でゆっくりと入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣や、その時の状況によって安心した睡眠がとれるように配慮しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師からの指導や処方箋などの説明・確認をとりながら支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりが出来ることに対して、負担にならない程度にお願いをしています。また、終わった後には感謝の言葉も掛けながら支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事予定を立案し、季節に合わせた行事を企画したり、その日の天気等により、外への散歩や道の駅にソフトクリームを食べにドライブに行くなどの支援をしています。また、個人の要望にも応じられるように支援に向け取り組んでいます。	日常的に事業所周辺を散歩している。八雲町内のパノラマパークに出掛けたり、春のお花見から秋の紅葉狩りに至るまで年間行事を企画し、外出による社会性の維持向上に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりの状況に応じた金銭管理をして頂いています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望のある方は、自由に掛けて貰っています。手紙等読めない入居者様には代読等の支援等もしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や行事の写真、季節感のある壁画等を飾りつけたりしています。また、DVDで録画した演歌やのど自慢等をかけて入居者様が一緒に楽しめるように工夫しています。	事業所内は広くて、明るくゆったりしている。中央に玄関と事務室があり、ユニットは両サイドに分かれているが全体を見渡す事ができる。不快な臭いや音もなく壁の飾りが季節感を表している。また、対面式の台所からは職員が利用者と会話しながら仕事する様子が見られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに仕切り等ない為、1人になる事は難しいがソファや椅子を所々に置いてあり、少しでも思い通りに過ごせる様に配慮しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みのものを置いたり、本人が居心地よく過ごせるようにお話を傾聴しながら工夫しています。	クローゼットと洗面台が備え付けてある居室には、入居前から使用していた家具や日用品が持ち込まれ、家族の写真などが飾られている。利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっていて、廊下やトイレ等手すりを設置し安全に自立した生活が出来る様に配慮しています。また、お部屋等分かりづらい場所には表札や写真等をご本人様や御家族様に了承を取りながら掲示しています。			